



数百年の時を経て、現代にその姿をとどめている建築物を見るのが趣味です。特に城郭が好きで、旅行に行くとき必ず、その土地の城郭を見に行っています。今の野望は、現存天守を制覇することです。

憲法論議を支える

北見 龍之介

憲法審査会事務局調査第三係長

(平成27年入局)

憲法審査会は、日本国憲法や憲法に密接に関連する基本法制に関する調査を行うとともに、憲法改正原案や国民投票法の審査を行う機関です。他の委員会であれば、調査室と委員部という別の部署で仕事をしていますが、私が所属する憲法審査会事務局では、調査担当と運営担当が同じ部屋に同居して協力し合いながら、国会での憲法論議をサポートしています。

私は、中でも調査を担当しています。議員などからの依頼に応じて文献を調べたり、参考となる資料を作成したりします。国の最高法規である憲法に関する調査のテーマは多岐にわたり、その一例を挙げると、最近、世間の注目を浴びている生成AIをはじめとする最新の技術が関わるテーマを扱うこともあります。そのため、憲法に限らず様々なことに関心を持ち、研鑽を積む必要性を日々感じています。時には、ドイツやフランスなど、海外の制度について調べることがあり、語学が得意な方にとっても活躍の場が多いのではないかと思います。

また、憲法審査会事務局には、議員立法の専門家集団である衆議院法制局からの出向者もあり、仕事をする上で刺激を受けることも多いです。

安全保障や民主主義など、国の根幹に関わるテーマについて議論する憲法論議に接する仕事は、プレッシャーがかかることもありますが、他では経験できないやりがいのあるものだと感じています。

国会開会中は、業務が立て込み、締切に追われることもありますが、閉会中は比較的休暇が取得しやすく、メリハリをつけて仕事をできているのではないかと思います。

国会と情報通信技術を結ぶ架け橋

大田原 渉

庶務部情報基盤整備室情報化企画係長

(平成24年入局)

技術系

国会と情報通信技術、何となく結びつかないという印象をお持ちの方は少なくないのではないのでしょうか。国会が持つ歴史的慣習を重んじる面は残しつつも、その裏側では、他の企業と遜色がないぐらいに、日々の業務はデジタル化されています。

その立役者となっているのが情報基盤整備室です。情報基盤整備室では、業務で使用するパソコンやネットワークなどの環境整備や、情報セキュリティ対策の推進や啓発等を通して、衆議院で働く議員・秘書・職員が、業務を効率的かつセキュアに遂行できるよう、情報通信技術の観点から、様々なサポートを行っています。

例えば衆議院には、本会議や委員会などの情報を登録し、様々な業務に活用できるシステムが整備されています。私が所属する情報化推進係では、このシステムが意図しないサービス停止等をしないよう、保守業者と連携し、時にはサーバ室に自ら赴いたりしながら必要な調整を行っています。

また、情報セキュリティポリシーという、職員がパソコンなどを使用して情報を取り扱う際の基準を整備したり、議員・秘書を対象にITリテラシー研修を開催して、業務を効率的に行うための方法や、存在するリスクとその回避策などを学ぶ機会を用意したりするなど、業務のデジタル化を下支えするような取組を多方面に展開しています。

ここで紹介したものはほんの一例です。個々の仕事は実に様々なものがあり、初めは戸惑うかもしれませんが、どの仕事も情報通信技術で衆議院を支えるという最終的な目的は同じです。熱意ある皆さんと仕事ができる日を楽しみにしています。



学生時代からサッカー観戦は趣味の一つでしたが、2022年のW杯以降、週末に家族でサッカー観戦に出掛ける機会が増えました。お酒も好きなので、観戦しながら飲むビールはスタジアムでの楽しみの一つです。

後世に引き継ぐ歴史的な建物

駒形 雄太

庶務部営繕課建築設計第四係長
(平成25年入局)

技術系

営繕課には技術系職員が多数在籍しており、その領域は、意匠・構造を扱う建築と空調・衛生・昇降機を扱う機械設備に大別されます。いずれの分野においても、既存施設の修繕、改修を主体とした設計を行うほか、入札手続きから工事監理・検査までの一連の業務に携わります。完成後には、建築物及び附帯設備（エレベーター、空調、上下水道など）の点検や運転監視といった維持管理も行っています。これらの業務においては、電気施設課とも密接に関わり合いながら、建築・機械・電気が一体となり、施設整備を通じて円滑な議会運営を支えています。

衆議院には国会議事堂をはじめとした国会関連施設が20棟以上あります。これらの修繕や改修に当たっては、大半が自らCADを用いて設計図を作成し、発注仕様を決定しています。新たに建物を建設することはあまり多くありませんが、歴史的な建物には技巧を凝らした意匠や設えが数多く存在し、現代の建物ではほとんど見ることのない技術や工法に触れることができるのは、当院の特徴的なところだと思います。

特に国会議事堂は、当時の日本における技術の粋を集めて建設され、国内外にその高い技術力を示すものとなりました。それから86年にわたり、事務局職員たちの手で今日までその風格を保ってきました。これらの貴重な建物をしっかりと後世に引き継ぐことは我々の使命だと思っています。そのためには最新の技術や知見も同時に学ばなければなりませんし、何より先代からのノウハウを引き継いでくれる有望な人材を探さなければなりません。ぜひ皆さんにもその一翼を担っていただきたいと思っています。



保育園に通い始めた娘の日々成長する姿に感動しています。育児は大変な事もありますが、子どもの楽しそうな笑顔には癒されます。時間があれば建築好きの仲間と建物探訪をしたり、妻とスポーツ観戦をしたりして楽しんでいます。



休日は子どもたちと外遊びや家族で買い物・旅行に出かけることが多いです。最近は長女が動物の名前をたくさん言えるようになってきたので、サファリパークに行くて実物を見てきました。

国会議事堂を支える技術

大谷 哲也

庶務部電気施設課変電設備係長
(平成26年入局)

技術系

衆議院と聞くと、連日報道されている本会議や委員会の審議が想像されると思います。衆議院事務局は、衆議院を支えるため、会議運営、調査、記録、警務など様々な分野の職員が仕事を行っている機関です。

その中で私が所属しているのが電気施設課です。電気施設課では、国会議事堂をはじめとする建物で、電気設備を利用する方々が安心して仕事ができるよう、設備の点検や保守を行い、必要に応じて老朽化した設備の改修や故障した設備の修繕などを行っています。

対象となる設備は照明やコンセント、電話、テレビなど、普段の生活で皆が使用している設備から、火災報知器や防犯設備などの建物を守る設備、珍しいところでは、本会議や委員会のテレビ中継を行うカメラや音響設備まで、数多くあります。

衆議院事務局の技術職を検討されている方の中には、電気設備について未経験であることを心配されている方もいるかもしれません。私も採用当初は電気設備の素人と言っても過言ではありませんでしたが、諸先輩の指導のもとで様々な業務をこなせるようになりました。まだまだ勉強することは沢山ありますので、これからも技術を向上させ、職務に励んでいきたいと思っています。

国会運営の日々を支える責任は重大ですが、とてもやりがい溢れる仕事であることは間違いありません。やる気・熱意・向上心に満ちた皆さんと、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。衆議院で、きっと大きな力を発揮する事ができるはずです。